

東郷村報

第106号

昭和35年9月3日発行所 宮崎県東臼杵郡 東郷村役場 日向市富高 安藤印刷所 電話64番

村長式辞

て、一夜にして倒壊の災にあい、とりあえず小野田公会堂を仮庁舎として移りましたが、これも東の間に、翌九月、再度来襲の台風で二度倒壊の厄にあいました。

完全な庁舎の建設は本村にとりましては喫緊の事業であり、村民もまた度々要望したのであります。新制

なる郷土愛の熱意と、請負者の吉崎組電工社大同工業の方々の優秀なる技術を経

覚悟を新にするものであります。内外村民各位の絶大な御協力と、皆様御指導、御支援を切にお願ひいたします。

任期三年の区長制に改められた。明治三十七、三十八年日露戦争の年である。村は

祝廳舎落成

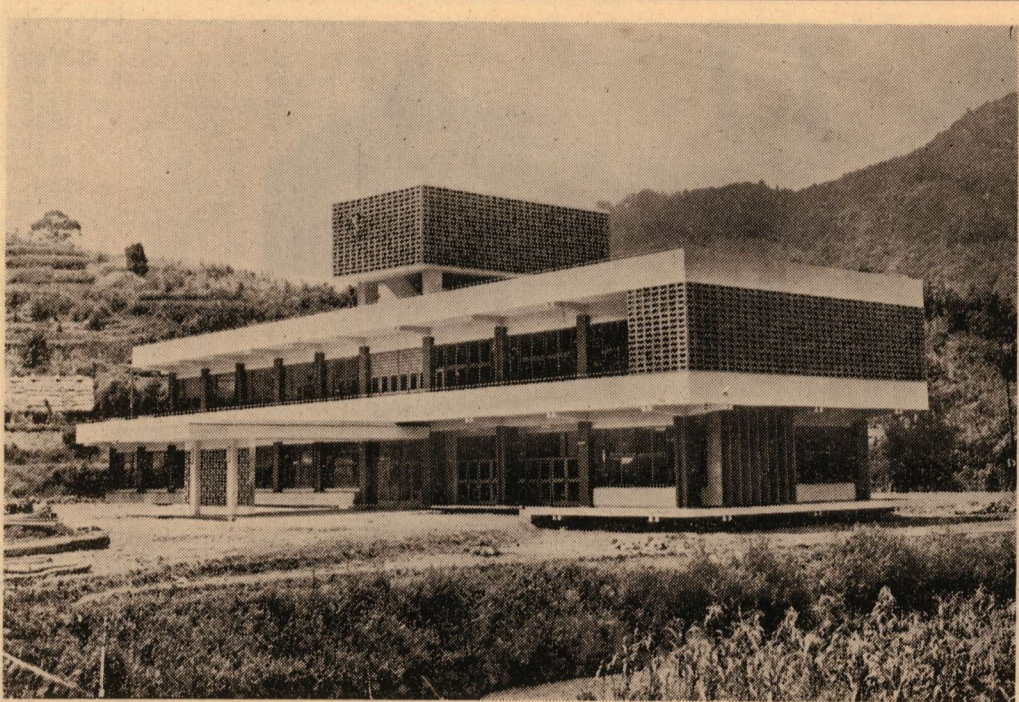
本日茲に、県知事殿をはじめ来賓多数の御臨場を辱ういたしました。本村役場庁舎の竣工の式典を挙げ、併せて村治功労者の頌徳碑の除幕をはじめ村政に功勞のあつた方々に表彰状を贈呈いたします。これは感激の極みであります。

二年に町村制が施行され、治三十七、三十八年、その間に、本村は役場を数回に亘り移転いたしました。最初、戸長役場をそのまゝ村役場として踏襲いたしました。明治三十二年、山陰、坪谷の戸長役場を廃して東郷村となつて今日に及んでおるものであります。現在におきましては、その面積二一八、七平方町、人口約一万八、七千人、財政状態も健全な力強い地方自治体として、その基礎を確立され、産業、経済、文化その他あらゆる面に、おきまして輝かしい発展を遂げられたのであります。これもひとえに村御

祝辞 宮崎県知事 黒木博 本日にここに、東郷村庁舎落成式を挙行されるに当りまして、衷心よりお祝い申し上げます。顧みまするに、本村は遠く明治二十二年、山陰、坪谷の戸長役場を廃して東郷村となつて今日に及んでおるものであります。現在におきましては、その面積二一八、七平方町、人口約一万八、七千人、財政状態も健全な力強い地方自治体として、その基礎を確立され、産業、経済、文化その他あらゆる面に、おきまして輝かしい発展を遂げられたのであります。これもひとえに村御

祝辞 黒木博 ことば、まさしく今後の東郷村政の一段と進展を約束するものであります。相共に欣快に堪えないところでありませぬ。さらさらの佳き日に村治功労者として又永年勤続者として村政に寄与された方々の頌徳碑の除幕式ならびに表彰が行われ、その功績をたたえられますことと、まことに意義の深いことであり、又これを受けられた方々に対しましては、深甚なる敬意を表する次第であります。

明治二十二年 甲斐定一郎氏が第一の本村長に就任、役場は戸長役場を村役場として使用した。 明治二十五年 村長山陰、坪谷の戸長役場を廃して東郷村となつて今日に及んでおるものであります。現在におきましては、その面積二一八、七平方町、人口約一万八、七千人、財政状態も健全な力強い地方自治体として、その基礎を確立され、産業、経済、文化その他あらゆる面に、おきまして輝かしい発展を遂げられたのであります。これもひとえに村御



新装なれる新庁舎

中学校の整備に次ぐに、村内五つの小学校の老朽危険校舎の改築を計画し、これに十年の歳月を費しまして昭和三十三年度ようやく一応の完成をみましたので、

す。本村百行政の源泉であります。かく、本村民生の根拠たるこの庁舎の建設に当りまして、その設計と管理に献身的に御尽力下さり、村政の発展に御協力下さい。

明治二十二年 甲斐定一郎氏が第一の本村長に就任、役場は戸長役場を村役場として使用した。 明治二十五年 村長山陰、坪谷の戸長役場を廃して東郷村となつて今日に及んでおるものであります。現在におきましては、その面積二一八、七平方町、人口約一万八、七千人、財政状態も健全な力強い地方自治体として、その基礎を確立され、産業、経済、文化その他あらゆる面に、おきまして輝かしい発展を遂げられたのであります。これもひとえに村御

明治二十二年 甲斐定一郎氏が第一の本村長に就任、役場は戸長役場を村役場として使用した。 明治二十五年 村長山陰、坪谷の戸長役場を廃して東郷村となつて今日に及んでおるものであります。現在におきましては、その面積二一八、七平方町、人口約一万八、七千人、財政状態も健全な力強い地方自治体として、その基礎を確立され、産業、経済、文化その他あらゆる面に、おきまして輝かしい発展を遂げられたのであります。これもひとえに村御





村政の思い出

本村政の思い出を小野前村長と新名議長にお願いしてその玉稿を得ましたので記載いたします。小野氏のは次号にも続いて記載することにいたします。

二十年前の思い出

小野 弘

私が二度目の役場入りをしたのは昭和十四年の八月二日である。昭和九年一月十五日書記兼技師と云ふ肩書で初めて東郷村役場に出るようになったのであるが一年後の昭和十年五月末には退職して全六月一日に岩脇村(現在日向市)の農業技師として転任。此処に二年奉職して昭和十二年六月一日には都城市農会に転任した。僅か五年の間に三度任地をかかえているのであるが理由がある。昭和十四年は私の生涯を決める最も重大な年であった。昭和十二年七月七日華北の蘆溝橋に勃発した日支事変は近衛内閣の不拡大方針にかかわらず燎原の火の如く拡がって収拾すべからざる状態となった。昭和十四年一月四日には責任を負って第一次近衛内閣は総辭職。大命は親密院議長平沼騏一郎氏に降下したが、八月二十九日には榎本外相日独伊の防共協定を結んでいた盟邦ドイツが独ソ不可侵条約を締結するに及んで欧州の天地は複雑怪奇の新格局が起るに及んで世界情勢の対峙は出来ぬとの理由で僅か八月の短期間内閣で崩壊、阿部内閣が出現した。事変は極度に苦しい戦いもあつたが連戦連勝で皇軍の志気は大いに揚つていた。私達は統帥にあつて皇軍の武運長久と必勝を祈り乍ら戦力増強の基盤である食糧の増産に挺身した。役場や農会の仕事も漸次戦時体制を固め乍ら戦争遂行に走らざるを得なかつた。昭和十

三年末当時の相川知事が提唱した「皇祖発祥の聖地に生れた業業の皇民の裔たるに感謝し神恩報謝の精神を以て勤勞を倍加し皇國の振興を期すること」を根本理念とする祖国振興隊が花々しく登場したのもこの時である。この年の一月七日木島部隊に属して中華民国江西省德安縣張古山附近の戦場に參加して三ヶ月の戦死の公報を受けた。三月二日遺骨が無言の凱旋をして原隊葬が行われ、三月五日には村葬が執行された。身近に戦争の悲哀を感と云ふ程味わされた。二月七日には県議会の議長で当時都城市農会長であつた、大山綱治氏が死去された。元東旧村長の郡長で非常に謹厳な人であつたが私は破格の厚遇を受けていた。尊敬する人の死に直面して

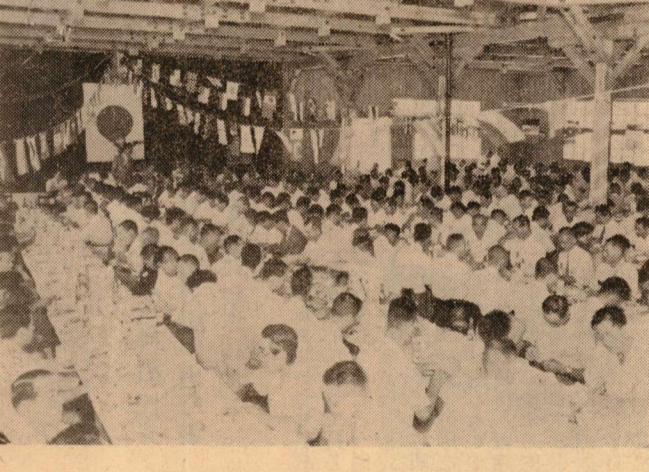
おもいで

新名 岩喜

私にいつか私に「俺にも乞考へがあつとちやがもういづと辛棒してみらんかね」と引留められたのを強引に振切つて飛出した手前この懇請には一考せざるを得なかつた。七月十日役場にゆくと奈須耕人生活に徹すべきか、再び勤人生活に入るべきか、三ヶ月を経た七月九日一面談したいことがあるから明日役場まで来上されたい」と村長からの通知を受取つた。七月二十日に返事の催足が来た、友人先輩の意見は賛否両論であるので暫くの間と云ふことで八月一日から出勤すると云ふことを返事したのである。(続)

私にいつか私に「俺にも乞考へがあつとちやがもういづと辛棒してみらんかね」と引留められたのを強引に振切つて飛出した手前この懇請には一考せざるを得なかつた。七月二十日に返事の催足が来た、友人先輩の意見は賛否両論であるので暫くの間と云ふことで八月一日から出勤すると云ふことを返事したのである。(続)

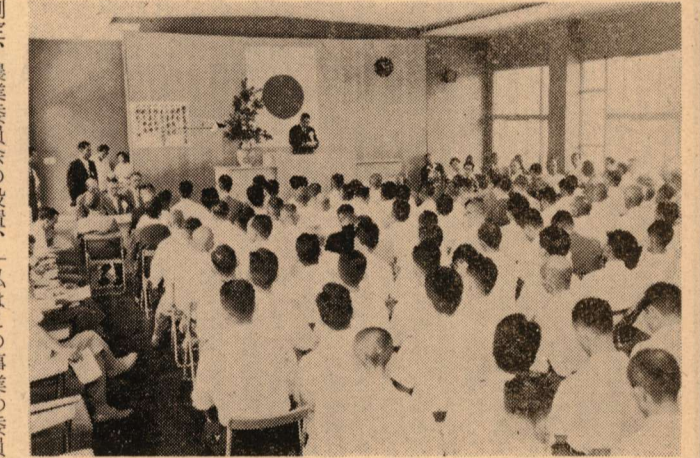
村長と当時助役の寺原治平氏から是非役場に出て貰いたい、仕事は簡業と農会の内勤事務をやつて貰いたいとのことであつた。私は即答し兼ねたので猶予を願つて帰つた。七月二十日に返事の催足が来た、友人先輩の意見は賛否両論であるので暫くの間と云ふことで八月一日から出勤すると云ふことを返事したのである。(続)



祝賀会風景

村長と当時助役の寺原治平氏から是非役場に出て貰いたい、仕事は簡業と農会の内勤事務をやつて貰いたいとのことであつた。私は即答し兼ねたので猶予を願つて帰つた。七月二十日に返事の催足が来た、友人先輩の意見は賛否両論であるので暫くの間と云ふことで八月一日から出勤すると云ふことを返事したのである。(続)

村長と当時助役の寺原治平氏から是非役場に出て貰いたい、仕事は簡業と農会の内勤事務をやつて貰いたいとのことであつた。私は即答し兼ねたので猶予を願つて帰つた。七月二十日に返事の催足が来た、友人先輩の意見は賛否両論であるので暫くの間と云ふことで八月一日から出勤すると云ふことを返事したのである。(続)



落成式風景

落成式風景

点

了し四月改選となつた。幸運にも私は四度議席を得、五月十一日議会に於て再度議長に選任され光榮の至りに存じ、ど馬に鞭打つことになつた。昨年は旧庁舎倒壊以来、不便なる仮庁舎に県下一光が眩くす庁舎建ての手前味噌を並べて自慢によりましてようやく竣工して私どもの心は歓喜に満ち満ちています。これで私ども、見事に一つの大きな贈り物ができたことをよろこんでいます。